



カチラクンディ(カラチ市のゴミ捨て場)の集落の中にある、有価物買い取り所
 ゴミ捨て場で暮らす人々は、ゴミの中から集めた有価物を換金して生活している
 有価物は種類ごとに買い取り価格が異なり(鉄・アルミ・銅・プラスチック・動物の骨など)、
 白い袋に分けられて入っている



街中にたくさんある仕立て屋さん
 人々は良く利用している

フォトギャラリー

「はかる (測る・量る)」 پیمائش

ビーマイッシュ



カチラクンディの集落の中には
 上下水道が通っていない
 大きな水溜めから水を買っている



アル・カイルアカデミー本校 理科の実験



街角で果物を売る青年

担当者としての十年と一年

東葛センターの開所が2010年11月なので、もうすぐ11年になります。この11年の一年間は、まるまるコロナ禍となりました。そんな期間も変わらず協力してくださる皆様のおかげで、活動を続けられていると感じています。本当にありがとうございます。

世界中の人たちにとって特殊なこの期間、自分たちにとっても当然同様でした。とにかく考える時間が多かったように思います。センター運営の中で考えるというのは、現状を把握して次の行動を決めることだと思います。具体的には認識↓分析↓計画↓予測をするわけですが、この状況での認識と予測はとても困難です。現場では「今どうなってるんだ?」「で、どうすんだ?」の毎日です。

本来であれば十一年目、十年の活動で培った経験と多くの関係者がいる中で、どつしりと構えて臨むのか新たな取り組みに着手していくのかといった時期だと思えます。実感として、店舗への来客や売上と輸入古着の入荷が安定し始めたのが2018年の夏ごろからで、その頃から十年となる時期を想って新たな取り組みを考え始めていました。そのうちのひとつとして東葛センターと兼任している海外事業で、計画立案の為に話し合っていたパキスタンでの新

規事業は中断しています。それも状況が大きく変わったためです。パキスタンは世界でトップクラスの古着輸入国ですが、それらをすべて国内で消費しているわけではなく、多くを仕分けしたのちに輸出しています。つまり加工貿易の原材料として輸入しているため、流通が大きく滞った中では事業も進められません。また、古着の仕分けは機械化することができないためにリモートワークなどもできず、行動制限がかかれば作業も止まってしまいます。

そんな一年は、考えていたことを保留して新たに考えながら取り組むこととなり、新しい一年のようでした。時間の心理的な長さは年齢に反比例すると何かの本で読みましたが、考え続けた新しい一年はとても長く感じました。9月になり、店舗スタッフの小松崎君と一年前の今頃はこうしていたかと宣伝用のSNS、インスタグラムを振り返りましたが、二人そろってもうそれはずいぶん過去のことのように感じると話しました。

明るい変化ではないので後ろ向きになりがちですが、今までの十年と新しい一年を経たこれから先も楽しい時間にしていきたいので、現状から精一杯前向きに考えていきたいと思えます。

しっかりとした土台

コロナ禍となり、これまでと同じようにはできなくなったことも多くあり、どんな方法ならできるのか、ほかにできることはないかと、常に考えその時でできることをやって来た1年だったと感じています。

JFSAの販売の場は、千葉と柏のお店以外に、オンラインショップ、フリマ・イベント販売、協力団体の場をお借りしての販売、委託販売があります。毎週土日はどこかへ出店していたフリマ・イベント販売は、コロナ禍になってからは開催もほとんどされなくなり、出店の機会は無くなりました。一方で、協力団体である、生活クラブ虹の街のお店「デポ」では、5カ所のデポで一ヶ月または2カ月に一回、定期的にお店の軒先をお借りして、販売をさせていただいており、コロナ禍になっても変わらず受け入れていただいています。また、委託販売（千葉市2カ所・市川市1カ所）についても、コロナ禍となった当初は休業もありましたが、今は以前と同様、JFSAの古着を委託で販売していただいています。（一か所につきハンガーラック5〜6本分・約2週間に一度入れ替え）

コロナ禍となっても変わらず様々な取り組みを継続していただけるのは、会員・支援メンバーの方々をはじめ、協力団体の皆さま、古着を出して下さる方、古着を買って

くださる方、仕分けに来ている選別協力団体の方々、ボランティアの方々…多くの方々の協力があつてこそのことだと、改めて感謝いたします。

今年度（2020年10月〜2021年9月末）、千葉店チャルカバザールの来客数は前年に比べると約1.5倍に増加しました。また、荷物を送ってくださる方の人数も約25%増え、集まった荷物の量も過去最高となりました。それに比例してお店の売り上げも増え、荷物の受け入れ、仕分け、値付け、品出し、接客など、とても忙しい日々です。

フリマ・イベント販売が無くなり、皆さんから送られてくる古着のリユース販売の場が減ってしまった今、JFSAのお店以外で販売ができる場はとても意味があります。売上はもちろん多いに越したことはないのですが、外に出かけて行って販売することのもう一つの目的は、活動をより多くの方に知っていただくことだからです。その時はたった1日の出張販売かもしれませんが、そこで出会った方に興味を持っていただければ、古着を出して下さったり、お店に来て下さったり、友達に紹介して下さったり…その先の広がりにつながります。

日々のお店での販売に加えて、外での販

東葛センター担当事務局 田辺航太郎



「ライブ見ましたよ」「紹介していた商品はどこにありますか?」お客様の反応で、配信を通じたコミュニケーションが少しずつできてきていると感じています。



新たな取り組み、オンラインでの動画ライブ配信。時代や状況に合わせて、試行錯誤。

千葉センター担当事務局 大橋紀子

売の準備は大変な時もありますが、今回はどんな出会いがあるかなと考えるながら準備をし、当日販売に行くメンバーに託しています。販売に行ったメンバーから聞く、こんなものが売れたよ、という言葉はもちろんうれしいのですが、こんな人と出会ったよ、とか、こんな出来事があったよ、という報告を聞くのが毎回とても楽しみです。

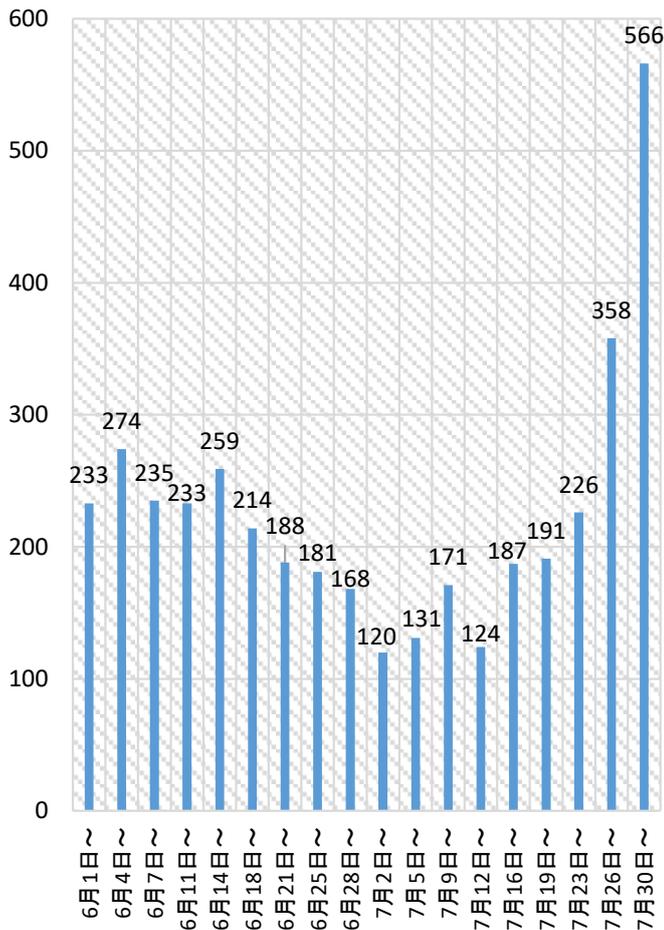
千葉市にJFSA海外衣料支援センターを開設して今年で23年。JFSAの土台がしっかりと固いものになってきているからこそ、土台を軸足として、外の販売や委託販売に取り組めること、そしてまた新しいことに枝葉のように広がっていきける太い幹のようなものだ、このコロナ禍を通してより一層感じています。



生活クラブ虹の街 大津ヶ丘デポの軒先にて販売の様子

JFSAに届けられた荷物

JFSAに届けられた荷物の個数
(2021年6月1日～8月1日)

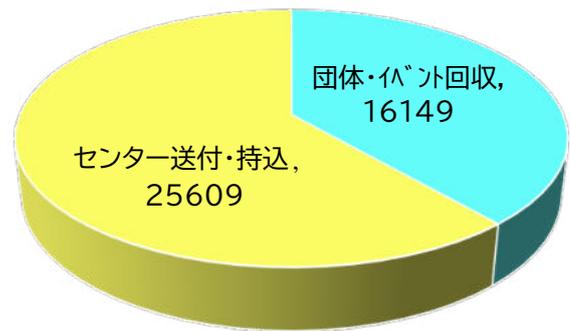


2021年6月1日～8月1日の期間に、宅配便や郵便などでお届けいただいた荷物の総数は4059個になりました。

●いちばんたくさん届いた日は7月30日(金)で331個、いちばん少なかった日は7月4日(日)と7月5日(月)で両日とも21個でした。

●JFSAのセンターに直接お持ち込みいただいた方は、延べ314人でした(左のグラフに入っていません)。

JFSAに届けられた荷物の重量比：キログラム
(2021年6月1日～8月1日)



お届けいただいた荷物は、包みを開けて1点ずつ種類別に一次選別します。選別協力団体(オーブハウス、オアシスOB会、千葉ダルク、紙ふうせん、あみあみ)の皆さんに有償でお願いしています。

一次選別が済んだものは国内リユース用(衣類は季節で分けます)、パキスタン輸出用(種類別に分けます)に分ける二次選別をJFSAのスタッフがします。

中古の毛布・シーツ・カーテン・タオル・下着類など、二次選別しないものは計量(50キログラム)シプレスマシンでボールを作ります。

全体の作業を順調にすすめることがポイントで、どこかが滞ると倉庫の中には物があふれてきます。また、暑い時期の作業では熱中症の注意も欠かせません。

荷物が届きました〜♪



2021年度(2021年10月～2022年9月)の正会員・支援メンバーを募集しています

NPO法人JFSAの会員は次の2種類です。

1. 会員(正会員) この法人の目的に賛同して入会した個人または団体
2. 支援メンバー この法人の目的に賛同し、賛助の意志を持つ個人または団体

会員・支援メンバーの方には、会報(年3回)、回収のお知らせ(年3回)、サポーターグッズ(年1回)をお送りします。正会員の方には総会議案書(年1回)もお届けします。

【2020年度 正会員 個人：166名・団体11 支援メンバー 個人：1257名・団体7】

●年会費(10月～翌年9月末)

個人：会員5,000円 / 支援メンバー2,000円
団体：会員50,000円 / 支援メンバー10,000円

●会費振込み口座(郵便振替)

番号：00160-7-444198 口座名：JFSA
*活動への寄付にも同じ口座がご利用できます。
通信欄に「寄付」とお書き添え下さい

◆JFSAの会報のバックナンバーをご覧ください◆

ホームページのトップページ中央「JFSAのニュースレター(会報)」よりお進みください。ご希望の方には郵送もできます。